

6.6 植物

本事業では、造成等の施工による一時的な植物への影響、施設の供用に伴う、施設の存在による植物への影響が想定されることから、植物に係る調査、予測及び評価を実施した。

6.6.1 現況調査

対象事業実施区域及びその周囲の植物の種及び群落の生育状況を把握し、影響を受けるおそれのある植物の種及び群落の分布状況等を把握するため、現地調査を実施した。

調査内容・方法等の概要を以下に示す。

(1) 調査すべき情報

調査すべき情報を表 6.6.1-1に示す。

表 6.6.1-1 調査すべき情報（植物）

影響要因	調査内容
造成等の施工による 一時的な影響	1)種子植物、シダ植物の生育種
	2)群落の生育・分布状況及び群落組成
	3)重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境の状況
	4)緑地の分布状況
施設の存在	1)種子植物、シダ植物の生育種
	2)群落の生育・分布状況及び群落組成
	3)重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境の状況
	4)緑地の分布状況

(2) 調査の基本的な手法

1) 種子植物、シダ植物の生育種

種子植物、シダ植物の生育種の調査手法を表6.6.1-2に示す。

表 6.6.1-2 調査手法（種子植物、シダ植物の生育種）

調査項目	調査手法
現地調査	任意観察法とし、対象地域を踏査して生育する高等植物（種子植物及びシダ植物）の種名を記録した。現地で種名がわからない種については、標本を持ち帰り室内分析により同定を行った。

2) 群落の生育・分布状況及び群落組成

群落の生育・分布状況及び群落組成の調査手法は表6.6.1-3に示すとおりである。

表 6.6.1-3 調査手法（群落の生育・分布状況及び群落組成）

調査項目	調査手法
既存資料調査	航空写真判読により調査範囲内の植物群落のまとまりを読み取り植生判読素図を作成した。作成した植生判読素図について、現地を踏査し適宜修正して植生区分図を作成した。
現地調査	各植物群落から代表地点を2か所程度のコドラーートを抽出し、植物社会学的手法（ブラウン・ブランケ法）による群落組成調査を実施した。コドラーート内に存在するすべての植物種を（高木層、亜高木層、低木層、草本層）等の階層ごとに抽出するとともに、種ごとの被度（優占度）及び群度を記録した。また、各群落の立地環境を把握するためには、地形（斜面型、斜面方位、傾斜角度）、環境（風当たり、日当たり、土温）、標高、調査面積等を併せて記録した。

3) 重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境の状況

重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境の調査手法を表6.6.1-4に示す。

表 6.6.1-4 調査手法（重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境）

調査項目	調査手法
現地調査	上記の「1) 種子植物、シダ植物の生育種」の調査で確認された重要な種・重要な群落について、以下の①～③について可能な限り把握した。 ①分布位置・分布範囲 ②生育の状況（株数・開花結実状況・健全度等） ③生育環境の状況（面積・植生・水深・日当り等）

4) 緑地の分布状況

緑地の分布の調査手法を表6.6.1-5に示す。

表 6.6.1-5 調査手法（緑地の分布）

調査項目	調査手法
現地調査	上記の「2)群落の生育・分布状況及び群落組成」の調査において、以下に定義する緑地の範囲を抽出した。 ・「都市緑地法」において定義される「緑地」の範囲 ・「森林法」に基づく「林地開発許可申請」手続きにおいて、「残置森林」として認められる森林機能が十分発揮される森林（林齢16年以上）と判断される森林の範囲

(3) 調査地域及び調査地点

調査地域は、対象事業実施区域及びその周囲とし、調査地域を表 6.6.1-6及び図 6.6.1-1～図6.6.1-2に示す。

表 6.6.1-6 調査地域

項目	調査地域	調査地点
種子植物、シダ植物の生育種	新施設整備予定区域及びその周辺 200m	調査地域において、植生区分図に区分した各植物群落より代表的なコドラートを 2か所程度抽出した。コドラートの抽出にあたっては、植生が典型的に発達している群落の中のできるだけ均質な場所を選定した。
群落の生育・分布状況及び群落組成	新施設整備予定区域及びその周辺 1.5 km	調査地点は、調査地域において、植生区分図に区分した各植物群落より代表的なコドラートを 2か所程度抽出した。コドラートの抽出にあたっては、植生が典型的に発達している群落の中のできるだけ均質な場所を選定した。 なお、コドラート位置については、可能な限り、新施設整備予定区域及びその周辺 200m の植物相調査範囲で設定し、植物相調査範囲に分布しない植物群落については、離れた位置も含め、適宜設定した。

(4) 調査対象期間等

調査地域における植物の生育状況を適切に把握し得る期間、時期及び頻度とした。

種子植物、シダ植物の生育種並びに群落の生育・分布状況及び群落組成の調査対象期間等を表6.6.1-7に示す。

表 6.6.1-7 調査対象期間等

調査項目		調査対象期間等
現地調査	種子植物、シダ植物の生育種	秋 季：令和6年10月1日（火）～2日（水）
		早春季：令和7年3月27日（木）～28日（金）
		春 季：令和7年5月7日（水）～8日（木）
		夏 季：令和7年7月31日（木）～8月1日（金）
	群落の生育・分布状況及び群落組成	秋 季：令和6年10月1日（火）～2日（水）

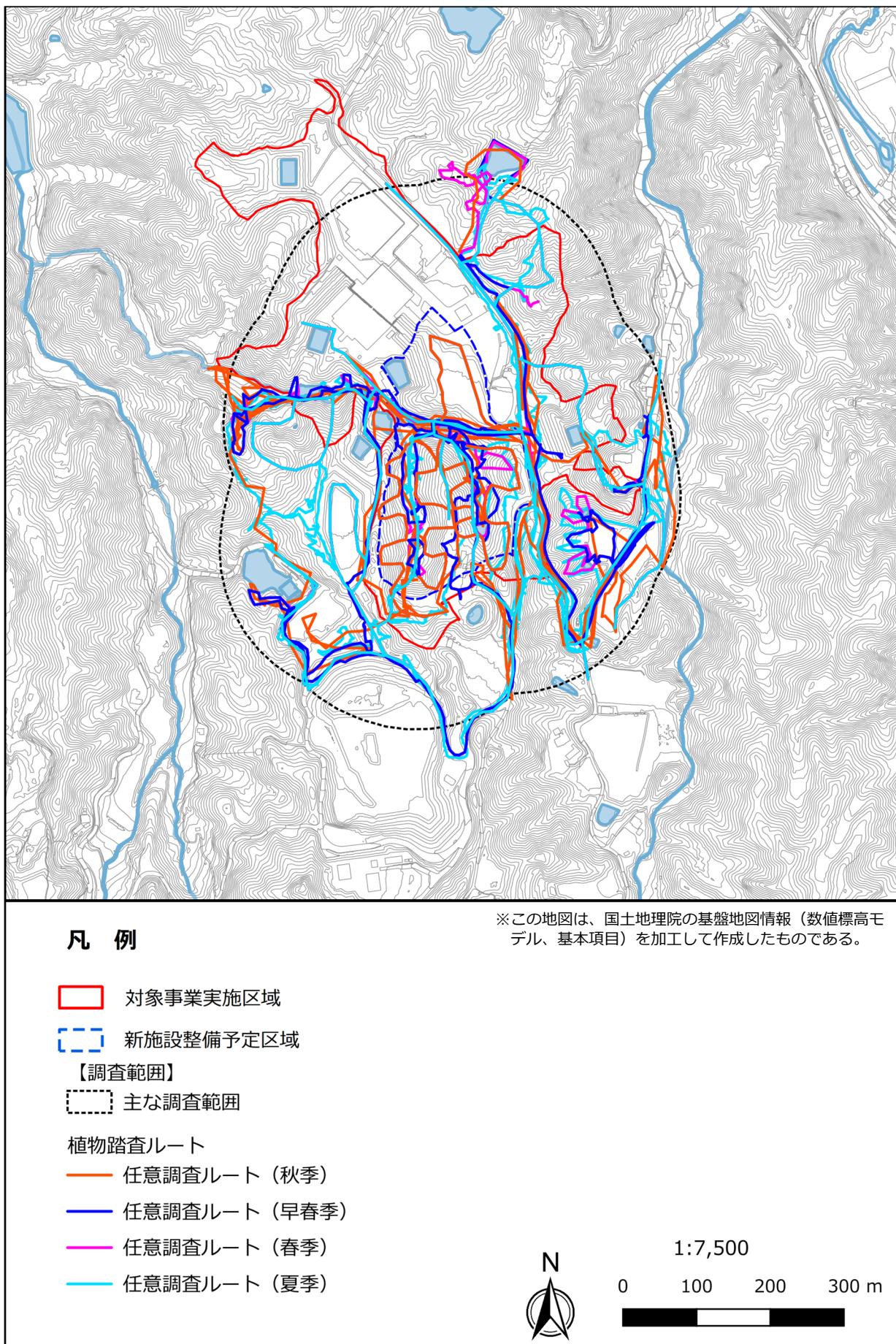


図 6.6.1-1 現地調査位置図（種子植物、シダ植物の生育種）

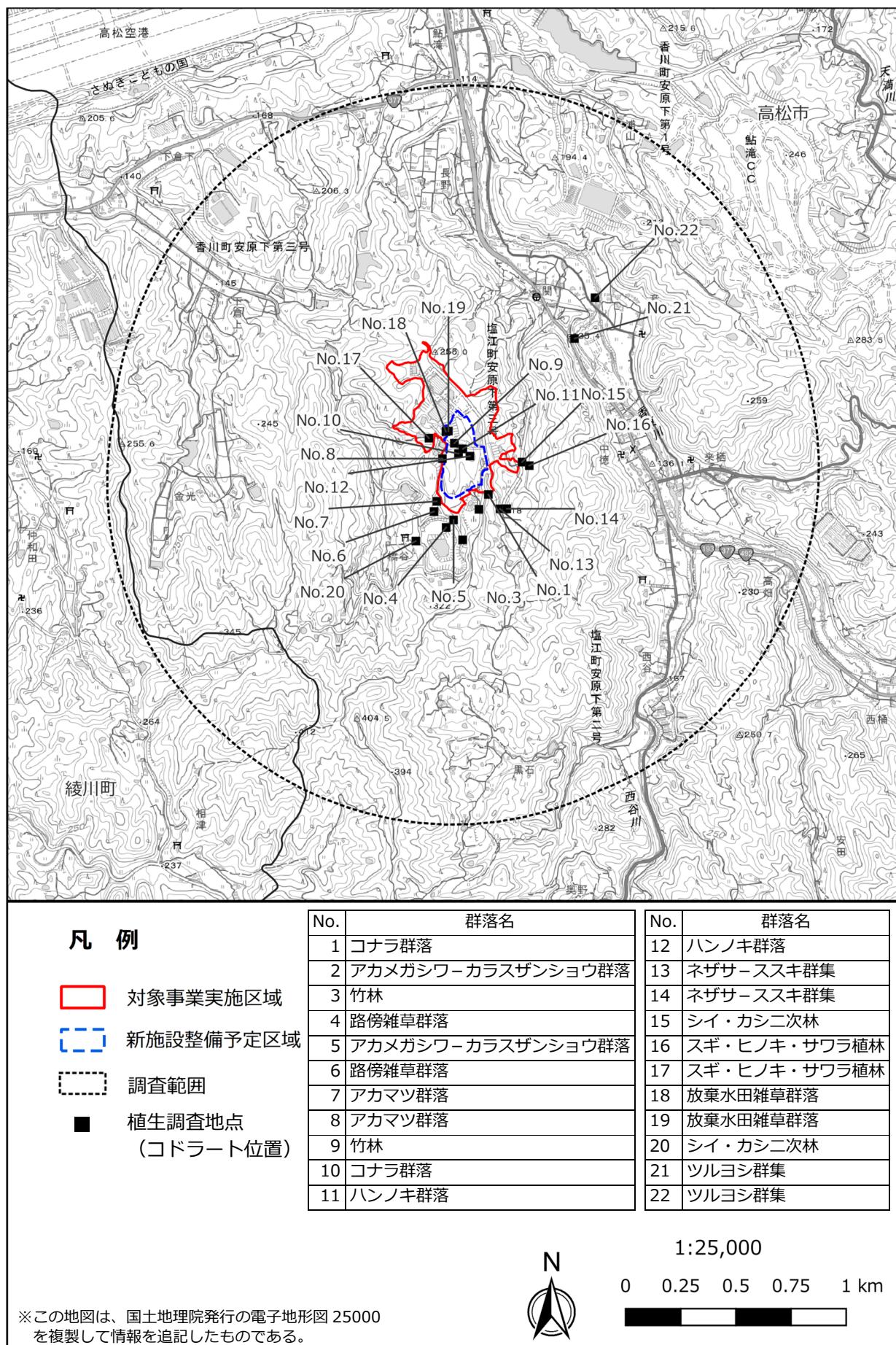


図 6.6.1-2 現地調査位置図（群落の生育・分布状況及び群落組成）

(5) 調査結果

1) 種子植物、シダ植物の生育種

現地調査による種子植物、シダ植物の確認種数一覧を表6.6.1-8に示す。植物は、夏季調査までの合計で110科442種が確認された。確認種一覧は巻末資料に示す。

調査範囲は主に混交林が広がる丘陵地で、新施設整備予定区域の南側には南北方向に2つの谷があり、放棄水田からなる湿地環境が存在している。この湿地には、ハンノキが優占する落葉広葉樹林が広がり、林床にはミゾソバ、コチヂミザサ、ヤブソテツなどの草本類が確認された。

尾根筋に広がる樹林には、コナラやアラカシ、ネズミサシ、イヌビワなどの樹木や、ウラジロ、シシガシラ、リョウメンシダなどのシダ類が確認された。

道路と樹林の間の林縁部や伐採跡地などでは、アカメガシワ、ハゼノキ、ネムノキ、ニワウルシなどの樹木が確認された。

また、調査時期別の花期の違いが特徴的な種としては、早春季（4月）ではシハイスミレ、オオバタネツケバナ、コバノミツバツツジなど、春季（5月）ではミミナグサ、ニシノオオタネツケバナ、カズノコグサなど、夏季（8月）ではヤマジノホトトギス、ヒメジソ、ゲンノショウコなど、秋季（10月）ではアキノタムラソウ、ヒロハスズメノトウガラシ、トキンソウなどがあげられる。

表 6.6.1-8 植物（種子植物、シダ植物）の確認種整理

分類		秋季		早春季		春季		夏季	
		科数	種数	科数	種数	科数	種数	科数	種数
シダ植物		13	25	11	22	14	38	11	28
種子植物	裸子植物	2	4	2	4	3	5	2	4
	被子植物	3	7	3	6	3	6	3	5
	下記以外の分類群	15	53	9	22	10	43	15	46
	単子葉類	57	134	37	96	59	179	59	154
110 科 442 種		90	223	62	150	89	271	90	237

注) 分類群及び種の配列は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 令和6年度版」に準拠した。

2) 群落の生育・分布状況及び群落組成

現地調査の結果、調査地域の植生は15群落と4土地利用単位に区分された。群落組成調査は耕作地やゴルフ場を除く植物群落を対象に、1群落につき2地点を基本として、22地点で実施した。

確認された植物群落及び土地利用区分の面積集計の結果を表6.6.1-9に、植物群落の概要及び現地確認状況を表6.6.1-10に、現存植生図を図6.6.1-3に示す。

調査範囲は主に混交林の丘陵地であり、群落ごとの面積では、コナラ群落の割合が調査地域で最も広く、約44%を占めている。次いで竹林（約20%）、水田雑草群落（約11%）、スギ・ヒノキ・サワラ植林（約6%）、アカメガシワーカラスザンショウ群落（約5%）と続いた。

既存資料（環境省自然環境保全基礎調査現存植生図：2001年度実施）では、丘陵地にはアカマツ群落が広く分布しており、コナラ群落は比較的少なく、竹林はほとんど分布していなかったが、マツ枯れによるアカマツ群落の衰退と、その後のコナラ群落の拡大や、里山放棄による竹林の拡大が顕著に示される結果となった。

新施設整備予定区域内の植生は近年の里山管理の形跡はほとんど見られず、尾根部には、主にコナラ群落が広がり、拡大した竹林も見られた。また、人為的な改変を受けた跡地には、中～低木からなるアカメガシワーカラスザンショウ群落や高茎草地のネザサーススキ群集が分布し、谷部の湿地環境（放棄水田）はハンノキ群落やアカメガシワーカラスザンショウ群落に遷移していた。

表 6.6.1-9 調査範囲内で確認された植物群落及び土地利用区分

No.	基本分類	群落名	植生 自然度 ^{注1)}	面積 (ha) ^{注2)}	
				調査範囲	新施設整備 予定区域
1	ヤブツバキクラス域代償植生	シイ・カシ二次林	8	0.86 (0.10%)	
2		コナラ群落	7	378.53(44.43%)	2.39
3		アカメガシワーカラスザンショウ群落	7	42.11 (4.94%)	0.76
4		アカマツ群落	7	0.62 (0.07%)	0.04
5		ハンノキ群落	7	0.18 (0.02%)	0.18
6		ネザサーススキ群集	5	8.54 (1.00%)	0.75
7	河辺・湿原等	ツルヨシ群集	5	2.42 (0.28%)	
8	植林地・耕作地	スギ・ヒノキ・サワラ植林	6	54.20 (6.36%)	
9		竹林	3	174.04(20.43%)	0.99
10		ゴルフ場	3	12.49 (1.47%)	
11		路傍・空地雑草群落	4	9.8 (1.16%)	
12		果樹園	3	4.83 (0.57%)	
13		畠雜草群落	2	1.99 (0.23%)	
14		水田雑草群落	2	93.42(10.97%)	
15		放棄水田雑草群落	5	0.07 (0.01%)	0.07
16	市街地等	市街地	1	56.30 (6.61%)	0.27
17		造成地	1	2.70 (0.32%)	
18		開放水域	1	7.91 (0.93%)	
19		自然裸地	1	0.82 (0.10%)	
合計		15 群落・4 土地利用単位	-	851.89(100%)	5.45

注1) 「(お知らせ) 1/2.5万植生図の新たな植生自然度について」

(平成28年、環境省自然環境局生物多様性センター) の植生自然度に準拠した。

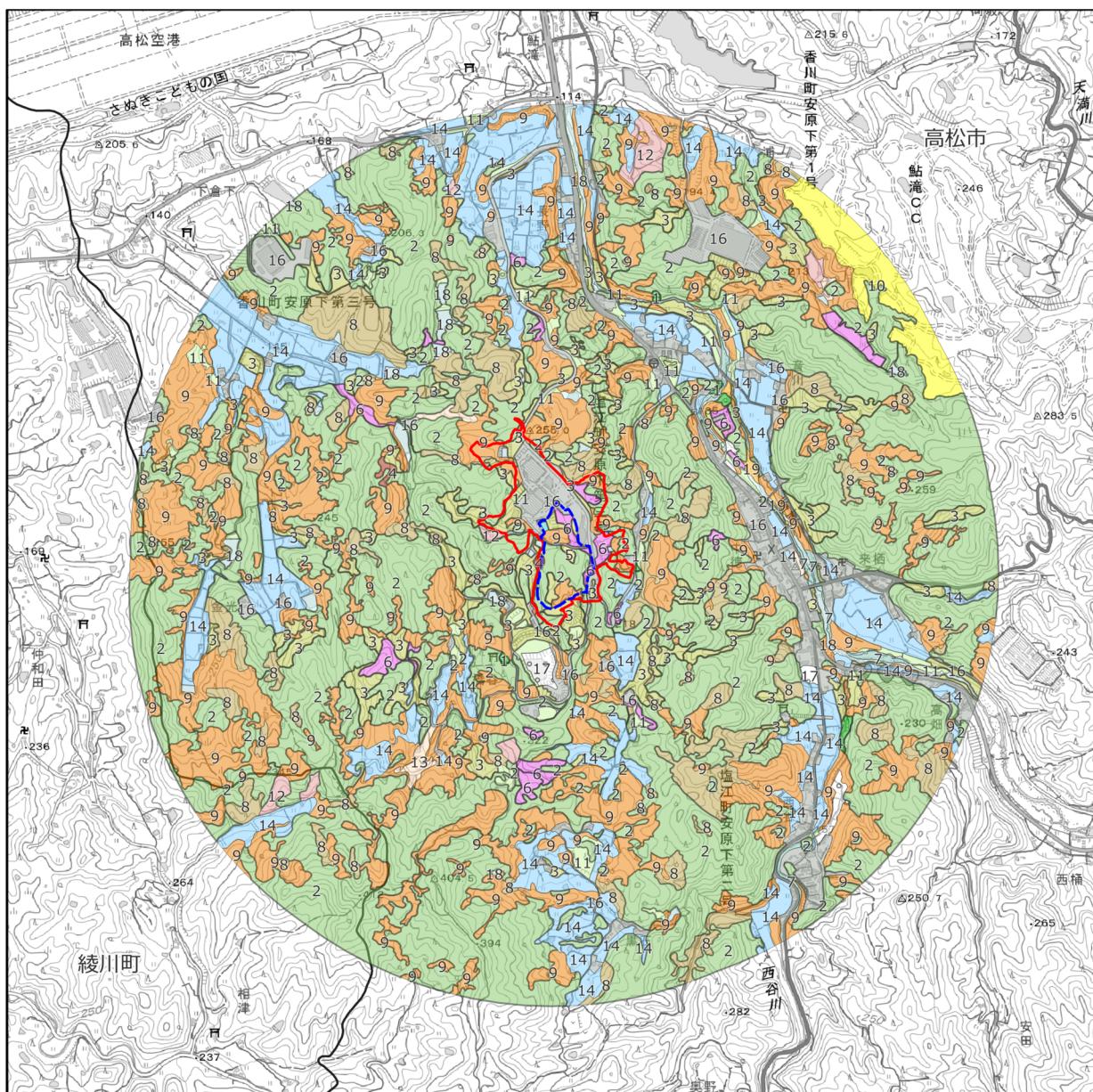
注2) 表中の面積及び割合は、四捨五入しているため合計が合わない場合がある。

表 6.6.1-10(1) 確認された植物群落の概要及び現地確認状況

No.	群落名	概要	現地確認状況
1	シイ・カシ二次林	アラカシが優占する常緑広葉樹林。群落高は約 16m。高木層～亜高木層にアラカシが優占し、低木層にはヒサカキ、アラカシ等が、草本層にはヤブコウジ、ジャノヒゲ、ヤブラン等が確認された。	調査地域斜面下部や河岸等で確認された。
2	コナラ群落	コナラ、アベマキの優占する落葉広葉樹林。群落高は 18m。高木層にコナラやアベマキが優占し、亜高木層にはアラカシやネズミサシ等が、低木層にはアラカシ、ヒサカキ、モチツツジ等が、草本層にはネザサ、ナワシログミ、ナキリスゲ、ヤブコウジ等が確認された。	調査地域山地斜面の広範囲で確認された。
3	アカメガシワーカラスザンショウ群落	アカメガシワ、ハゼノキ、ネムノキ、ニワウルシ等が優占する落葉広葉樹林。群落高は約 10m。高木層～亜高木層にはアカメガシワ、ハゼノキ等が、低木層にはエノキ、ネジキ、ノイバラ等が、草本層にはネザサ、ノブドウ、ヘクソカズラ等が確認された。	調査地域山地斜面や林縁部、伐採跡地等の広範囲で確認された。
4	アカマツ群落	アカマツが優占する針葉樹林。高木層～亜高木層にアカマツが優占し、低木層にはアラカシ、ヒサカキ等が、草本層にはネザサ、コシダ、ウラジロ等が確認された。	調査地域山地尾根の一部で確認された。
5	ハンノキ群落	ハンノキが優先する落葉広葉樹林。群落高は約 16m。高木層～亜高木層にハンノキが優先し、低木層にはイヌビワ、ウツギ、ダンコウバイ等が、草本層にはミゾソバ、コチヂミザサ、ヤブソテツ等が確認された。	調査地域谷筋(放棄水田)の一部で確認された。

表 6.6.1-10(2) 確認された植物群落の概要及び現地確認状況

No.	群落名	概要	現地確認状況
6	ネザサ - ススキ群集	ネザサが優占するササ群落。ススキ草地に混生している。群落内にはノイバラ、オニドコロ、ヤマグワ等が確認された。	調査地域の耕作地の周辺等で確認された。
7	ツルヨシ群落	セイタカヨシが優占する抽水植物群落。河川や水路に分布する。	香東川で確認された。群落高は3.2mでセイタカヨシ、カナムグラ、ナワシロイチゴなどが確認された。
8	スギ・ヒノキ・サワラ植林	スギ、ヒノキの植林。群落高は約20m。高木層～亜高木層にスギ、ヒノキが優占し、低木層にはイヌビワ、アラカシ等が、草本層にはイワガネゼンマイ、イノデ等が確認された。	調査地域山地斜面の広範囲で確認された。
9	竹林	マダケ等が優占する竹林。群落高は約10m。高木層～亜高木層にマダケが優占し、低木層にはノイバラ、エノキ等が、草本層にはフジ、ツユクサ、ヤブラン等が確認された。	調査地域山地斜面や農耕地の周辺等で確認された。
11	路傍・空地雑草群落	キンエノコロ、アレチヌスピトハギ等の生育する雑草群落。群落内にはセイタカアワダチソウやススキ、クズ等が確認された。	調査地域の路傍や造成地の周辺で確認された。
15	放棄水田雑草群落	マコモ、ヒメガマの優占する多年生草本群落。群落内にはミゾソバやヨシ等が確認された。	調査地域の調整池で確認された。



凡 例

植生凡例

□ 対象事業実施区域

1 シイ・カシ二次林

11 路傍・空地雑草群落

□ 新施設整備予定区域

2 コナラ群落

12 果樹園

3 アカメガシワーカラスザンショウ群落

13 畑雑草群落

4 アカマツ群落

14 水田雑草群落

5 ハノノキ群落

15 放棄水田雑草群落

6 ネザサーススキ群集

16 市街地

7 ツルヨシ群集

17 造成地

8 スギ・ヒノキ・サワラ植林

18 開放水域

9 竹林

19 自然裸地

10 ゴルフ場

</div

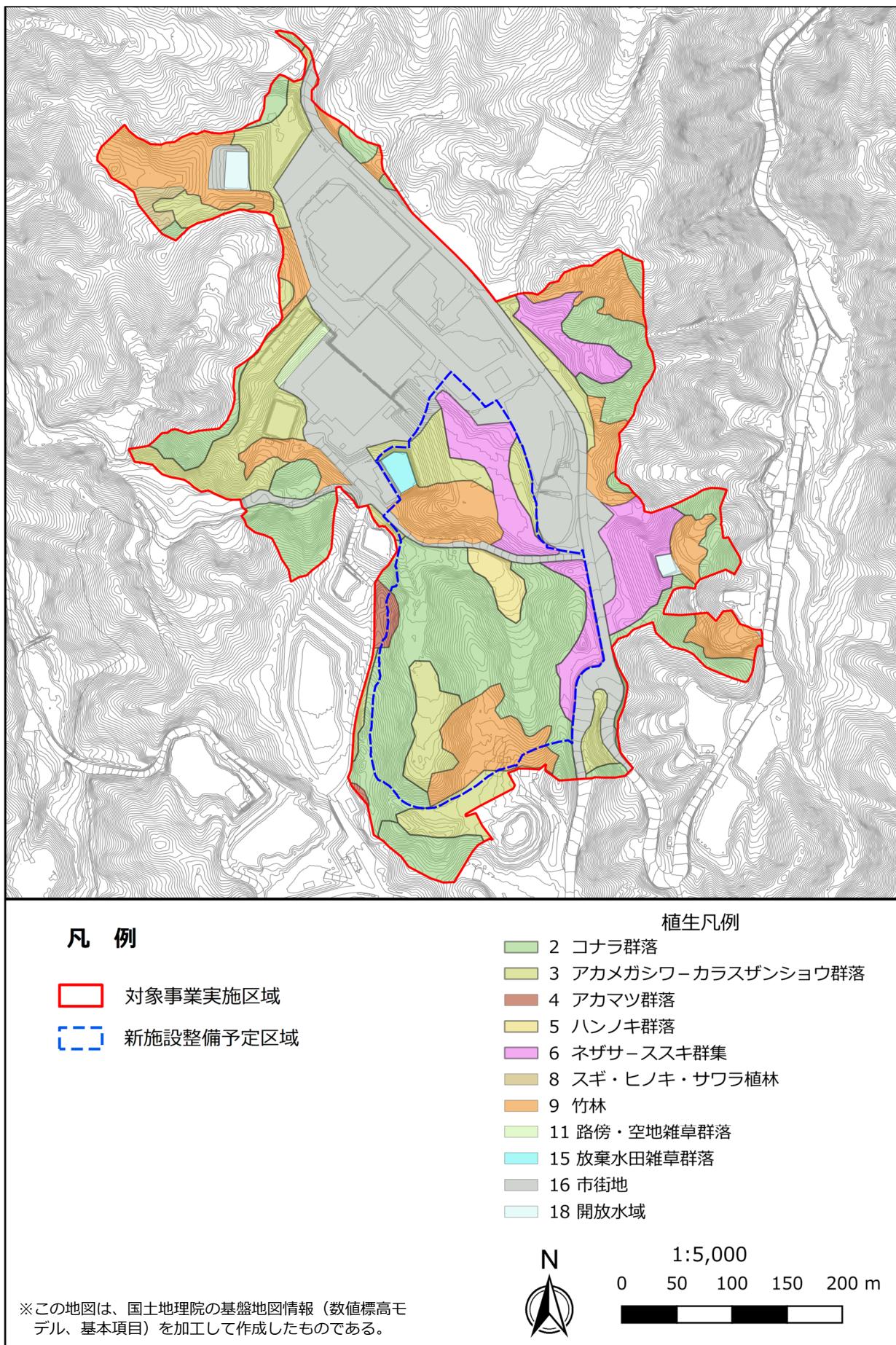


図 6.6.1-3(2) 現存植生図（対象事業実施区域）

3) 重要な種及び群落の生育・分布状況及び生育環境の状況

① 植物の重要な種の分布・生育の状況及び生育環境の状況

重要な種は、法令又は文献に該当する種とした。重要な種の選定基準一覧を表6.6.1-11に示す。

現地調査で確認された植物の重要な種は表6.6.1-12に示すミズオオバコ、フトヒルムシロ、ヤナギモ、ギンラン、アケボノシュスラン、ミミナグサ、イヌタヌキモの7種であった。重要な種の分布・生息の状況・生育環境の状況を表6.6.1-13に示す。

なお、重要な種の保全の観点から、確認位置等は掲載しない。

表 6.6.1-11 重要な種の選定基準一覧

No.	選定基準となる法令又は文献	カテゴリー
①	「文化財保護法」(昭和25年法律第214号)	特天：特別天然記念物 天然：天然記念物
②	「絶滅のおそれのある野生動植物の種の保存に関する法律」(平成4年法律第75号)	国希：国内希少野生動植物種 1種：特定第1種国内希少野生動植物種 2種：特定第2種国内希少野生動植物種 緊急：緊急指定種
③	「香川県希少野生生物の保護に関する条例」(平成17年香川県条例第44号)	指定：指定希少野生生物
④	「環境省第5次レッドリスト」(令和7年3月、環境省)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR：絶滅危惧 IA類 EN：絶滅危惧 IB類 VU：絶滅危惧 II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足 LP：絶滅のおそれのある地域個体群
⑤	「香川県レッドデータブック 2021 香川県の希少野生生物」(令和3年3月、香川県)	EX：絶滅 EW：野生絶滅 CR+EN：絶滅危惧 I類 VU：絶滅危惧 II類 NT：準絶滅危惧 DD：情報不足

表 6.6.1-12 重要な種一覧

No.	目名 科名	種名	確認時期				重要な種の選定根拠					確認状況
			秋季	早春季	春季	夏季	①	②	③	④	⑤	
1	オモダカ目 トチカガミ科	ミズオオバコ			○					NT	VU	1か所 約 100 株
2	オモダカ目 ヒルムシロ科	フトヒルムシロ		○	○						NT	2か所 約 30 株
3	オモダカ目 ヒルムシロ科	ヤナギモ	○	○	○						NT	2か所 約 150 株
4	クサスギカズラ目 ラン科	ギンラン		○							VU	4か所 9 株
5	クサスギカズラ目 ラン科	アケボノシュスラン			○						CR+EN	1か所 約 100 株
6	ナデシコ目 ナデシコ科	ミミナグサ		○							NT	1か所 5 株
7	シソ目 タヌキモ科	イヌタヌキモ		○	○					NT	VU	2か所 約 100 株
計	4目 5科	7種	1種	0種	5種	5種	0種	0種	0種	2種	7種	-

注1) 分類・配列・種名については、主に「河川水辺の国勢調査のための生物リスト（令和6年度生物リスト）」（令和6年、国土交通省）に準拠した。

注2) 重要な種の選定基準を前掲表 6.6.1-11に示す。

表 6.6.1-13(1) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（ミズオオバコ）

分類	オモダカ目 トチカガミ科					
種名	ミズオオバコ					
選定根拠	①文化財保護法	-				
	②種の保存法	-				
	③香川県条例	-				
	④環境省 RL	準絶滅危惧				
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II類				
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 本州、四国、九州、沖縄に分布する。※1 県内では平野部から丘陵部のため池などに広く分布する。※1 					
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> ため池、用水路などに生育する1年生の沈水植物。※1 葉の大きさは生育条件によって大きく変化する。※1 					
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 水上に花をつける。花弁は3枚で、白色から淡紅色。※1 花期は夏季～秋季で、種子はゼラチン状の粘液に包まれて水面を浮遊する。 					
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 夏季に新施設整備予定区域外の1か所の池で約100株が確認された。 					

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(2) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（フトヒルムシロ）

分類	オモダカ目 ヒルムシロ科	
種名	フトヒルムシロ	
選定根拠	①文化財保護法	-
	②種の保存法	-
	③香川県条例	-
	④環境省 RL	-
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 本州、四国、九州、朝鮮、千島に分布する。^{※1} 県内全域の、主として山間地のため池に分布する^{※1}。 	
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 酸性の水域に生育する多年生の浮葉植物。^{※1} 山間部や湿原の池、湿地、水路などの淡水域に生育する。 冬期には浮葉は枯死するが、沈水葉は水中で生存する。 	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花期は4~8月。^{※2} 種子は水面に浮遊し確認される。地下茎による増殖も見られる。 	
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 春季及び夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池で20株が、新施設整備予定区域外の1か所の池で10株が確認された。 	



出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(3) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（ヤナギモ）

分類	オモダカ目 ヒルムシロ科	
種名	ヤナギモ	
選定根拠	①文化財保護法	—
	②種の保存法	—
	③香川県条例	—
	④環境省 RL	—
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 北海道以南に分布しており、県内では平野部から山地部にかけて広く散らばって分布している。^{※1} 	
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 常緑性の沈水植物。^{※1} 湖沼やため池、流れが緩やかな水路などの淡水域に生育。やや貧栄養～中栄養の環境に多い。 	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花期は5~9月。^{※1} 水面に花茎を伸ばし小型の穂状花序を付ける。種子は水中や水面で散布される。 地下茎や腋芽による増殖が主体である。 	
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 秋季、春季及び夏季に新施設整備予定区域外の2か所の池で計約150株が確認された。 	



出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(4) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（ギンラン）

分類	クサスギカズラ目 ラン科	
種名	ギンラン	
選定根拠	①文化財保護法	—
	②種の保存法	—
	③香川県条例	—
	④環境省 RL	—
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II 類
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州に分布する。^{※1} 県内では丘陵部から山地部にかけて分布する。^{※1} 	
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 山の木陰に生育する多年草。^{※1} クヌギやコナラ等の落葉広葉樹林の林床に生育し、イボタケ科の菌類と共生関係にある。 	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花期は4~5月。3~10個ほどの白花を穂状につける。実が成熟すると裂開し、細かい種子を散布する。 種子の発芽には共生菌との接触が必要である。 	
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 春季に新施設整備予定区域内の3か所の樹林で計8株が、新施設整備予定区域外の1か所の樹林で1株が確認された。 	



出典) ※1「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(5) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（アケボノシュスラン）

分類	クサスギカズラ目 ラン科	
種名	アケボノシュスラン	
選定根拠	①文化財保護法	—
	②種の保存法	—
	③香川県条例	—
	④環境省 RL	—
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 I 類
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 北海道、本州、四国、九州、屋久島、種子島、朝鮮(済州島、鬱陵島)に分布。^{※1} 県内では旧寒川町、旧綾歌町、旧琴南町など、点在して生育が確認されている。^{※1} 	
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 山地の樹林下で、うす暗い腐葉土の堆積した林床に生育する。^{※1} やや湿った半日陰の林床を好む。 茎は横にはい、上部は斜上して約10cm位である。^{※1} 	
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花は薄紅紫色で3~7個つける。^{※1} 花期は8~10月。実が成熟すると裂開し、細かい種子を散布する。種子の発芽には共生菌との接触が必要である。 地下茎の分枝による栄養繁殖も行われる。 	
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 夏季に新施設整備予定区域内の1か所の林縁の湿地で約100株が確認された。 	



出典) ※1「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(6) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（ミミナグサ）

分類	ナデシコ目 ナデシコ科			
種名	ミミナグサ			
選定根拠	①文化財保護法	—		
	②種の保存法	—		
	③香川県条例	—		
	④環境省 RL	—		
	⑤香川県 RDB	準絶滅危惧		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 県外では、日本全土に分布する。^{※1} 県内では、観音寺市、まんのう町、綾川町、高松市、さぬき市、東かがわ市、小豆島町で生育が確認されているほか、三豊市、坂出市、三木町での生育記録がある。^{※1} 			
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 道端や畑などに生える越年草あるいは時に多年草。^{※1} 春（3～5月頃）に白色の小花を咲かせる。 			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花序は頂生し、まばらに花をつける。花弁は白色。^{※1} 春に白色の小花を咲かせる。実が成熟すると裂開し、細かい種子を散布する。 			
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 春季に新施設整備予定区域外の1か所の林縁の里道で5株が確認された。 			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

表 6.6.1-13(7) 重要な種の分布・生育・生育環境の状況（イヌタヌキモ）

分類	シソ目 タヌキモ科			
種名	イヌタヌキモ			
選定根拠	①文化財保護法	—		
	②種の保存法	—		
	③香川県条例	—		
	④環境省 RL	準絶滅危惧		
	⑤香川県 RDB	絶滅危惧 II類		
分布状況	<ul style="list-style-type: none"> 北海道以南に分布しており、県内では島嶼部を含め広く点在している。^{※1} 			
生育環境・生態	<ul style="list-style-type: none"> 湖沼やため池、水田、側溝などに生育する浮遊性の食虫植物。^{※1} 長さ 1mに達する浮遊植物。茎は細く柔らかい。^{※1} 水質は弱酸性～中性で透明度が高い場所を好む。 			
繁殖生態	<ul style="list-style-type: none"> 花茎は中実。花冠は黄色、距は下唇より短く鈍頭。果実は球形で径 4 mm、結実しない集団もある。^{※1} 花期は 7～9 月。^{※1} 茎の分断で増えるほか、越冬芽による増殖も盛んである。 			
生育状況・生育環境	<ul style="list-style-type: none"> 春季及び夏季に新施設整備予定区域内の1か所の池で約 50 株が、新施設整備予定区域外の1か所の池で約 50 株が確認された。 			

出典) ※1 「香川県レッドデータブック2021 香川県の希少野生生物」（令和3年3月、香川県）

注) 上記出典以外の生態情報については、様々な文献等を参考に一般的な生態を記載した。

② 重要な植物群落の分布・生育の状況及び生育環境の状況

現地調査により確認された植物群落のうち、重要な群落の選定基準一覧表の表6.6.1-14に示す基準に照らし合わせ、重要な植物群落を抽出した。重要な植物群落は確認されなかった。

表 6.6.1-14 重要な群落の選定基準一覧表

No.	選定基準となる法律又は文献	種別	確認状況
①	『文化財保護法』(法律第 214 号、昭和 25 年)	特別天然記念物 天然記念物(国)	—
②	『香川県文化財保護条例』(条例第 17 号、昭和 30 年)	天然記念物(県)	—
③	『高松市文化財保護条例』(条例第 13 号、昭和 41 年)	天然記念物(市)	—
④	『植物群落レッドデータ・ブック』((財)日本自然保護協会- (財)世界自然保護基金日本委員会、平成 8 年)	掲載されている植物群落	—
⑤	『第 2 回特定植物群落調査報告書』(環境庁、昭和 53 年) 『第 3 回特定植物群落調査報告書』(環境庁、昭和 63 年) 『第 5 回特定植物群落調査報告書』(環境庁、平成 12 年)	特定植物群落選定基準に該当する植物群落	—
⑥	『1/2.5 万植生図の新たな植生自然度について』(環境省、平成 28 年)	植生自然度 9-10 に該当する植物群落	—

4) 緑地の分布状況

① 「都市緑地法」において定義される「都市緑地」の範囲

対象事業実施区域における「都市緑地法」において定義される「都市緑地」の範囲として、現存植生図より、「樹林地：コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、アカマツ群落、ハンノキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林」、「草地：ネザサーススキ群集、路傍雑草群落」、「水辺地：放棄水田雑草群落、開放水面」、

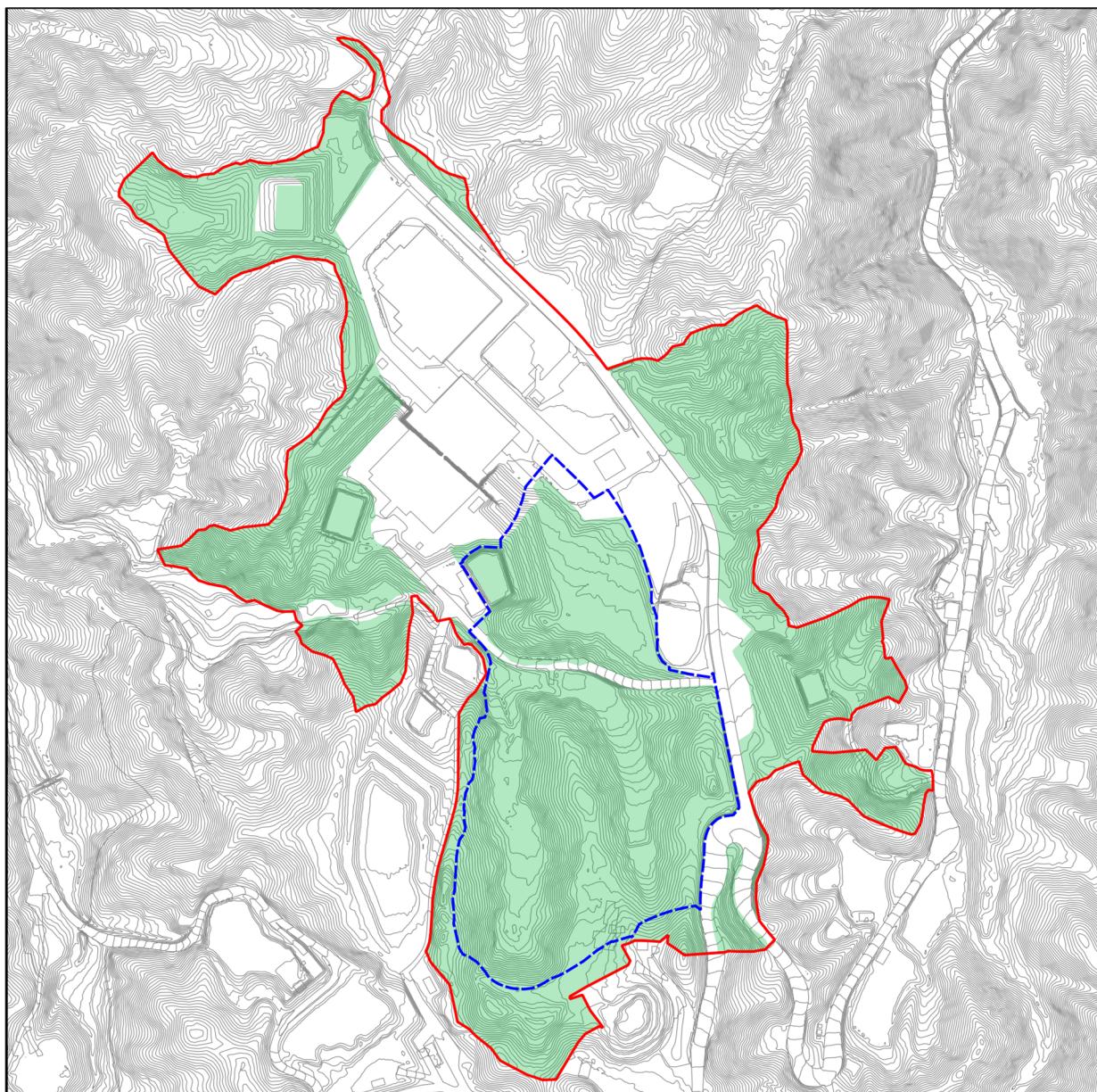
「岩石地：該当なし」、「これらに類する土地：該当なし」を抽出した。抽出結果を表6.6.1-15及び図6.6.1-4に示す。

対象事業実施区域（18.84ha）における「都市緑地」は13.01ha、そのうち事業により改変を受ける面積（新施設整備予定区域）は5.17haであり、7.83haの「都市緑地」が残存し、残存率は41.6% (=7.83ha/18.84ha) の見込みである。

表 6.6.1-15 対象事業実施区域における「都市緑地」の分布状況

区分	対象事業実施区域 (A)	新施設整備予定区域 (B)	残存範囲 (A-B)	植生区分・土地利用区分
都市緑地	13.01ha	5.17ha	7.83ha	コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、アカマツ群落、ハンノキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林、ネザサーススキ群集、路傍雑草群落、放棄水田雑草群落、開放水面
その他の土地利用	5.83ha	0.27ha	5.56ha	市街地等
合 計	18.84ha	5.45ha	13.40ha	

注) 表中の面積は、四捨五入しているため合計が合わない場合がある。



凡 例

※この地図は、国土地理院の基盤地図情報（数値標高モデル、基本項目）を加工して作成したものである。

- 対象事業実施区域
- 新施設整備予定区域
- 都市緑地

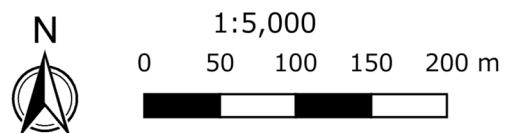


図 6.6.1-4 対象事業実施区域における「都市緑地」の分布状況

② 「残置森林」として認められる森林の範囲

対象事業実施区域における「残置森林」として認められる森林の範囲（以下、「森林」という）として、現存植生図より、コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、アカマツ群落、ハンノキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林を抽出した。抽出結果を表6.6.1-16及び図6.6.1-5に示す。

対象事業実施区域（18.84ha）における「森林」は12.76ha、そのうち事業により改変を受ける面積（新施設整備予定区域）は5.10haであり、7.66haの「森林」が残存し、残存率は40.6%（=7.66ha/18.84ha）の見込みである。

表 6.6.1-16 対象事業実施区域における「森林」の分布状況

区分	対象事業実施区域 (A)	新施設整備 予定区域 (B)	残存範囲 (A-B)	植生区分・土地利用区分
「残置森林」として認められる「森林」	12.76ha	5.10ha	7.66ha	コナラ群落、アカメガシワーカラスザンショウ群落、アカマツ群落、ハンノキ群落、スギ・ヒノキ・サワラ植林、竹林
その他の植生・土地利用	6.08ha	0.34ha	5.74ha	ネザサーススキ群集、路傍雑草群落、放棄水田雑草群落、開放水面、市街地等
合 計	18.84ha	5.45ha	13.40ha	—

注) 表中の面積は、四捨五入しているため合計が合わない場合がある。

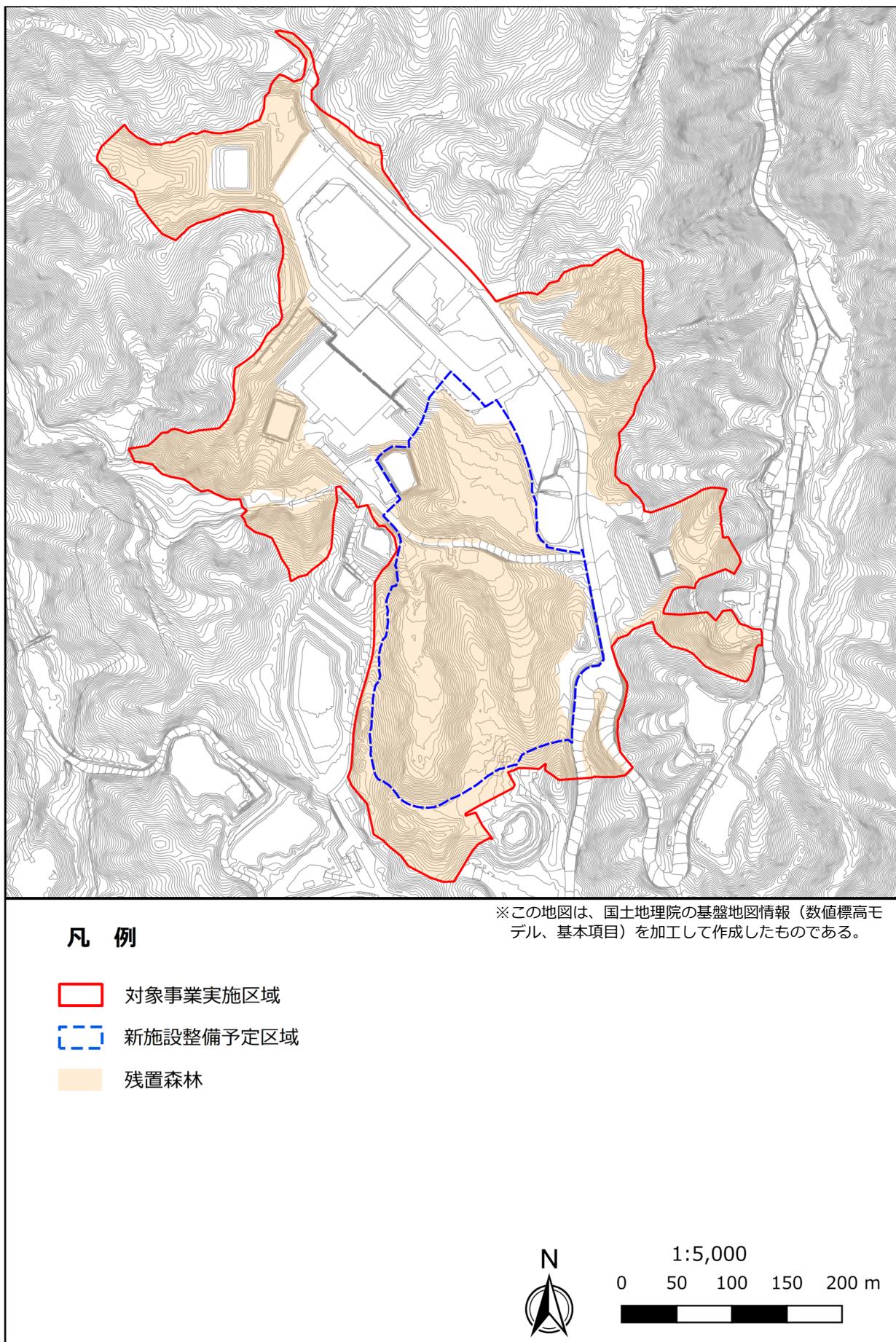


図 6.6.1-5 対象事業実施区域における「森林」の分布状況